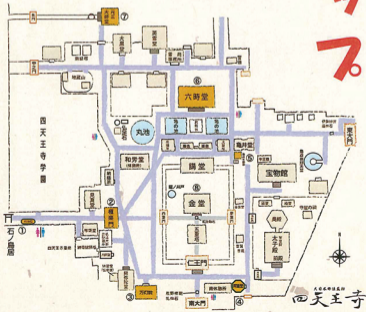


四天王寺の散策マップ

- ① 聖徳太子影向引導石
聖徳太子が御成道の時や聖徳太子は自らの石の上で影向せられ、極楽浄土にお導き下さる。と伝えられています。
- ② 西大門(極楽門)
昭和十七年(1942年)松平助氏の寄贈により再建されたが、極楽門とよばれる門の意から極楽門とよばれるようになった。
- ③ 万灯院(かみご守)
下の世話をしなないポツリ信仰があり、除災無病に靈験あたらかな紙衣の羅漢を祀るので「かみご守さん」と親しまれています。
- ④ 太子引導鐘(南鐘堂)
正式名称は、鐘樓といいますが、当堂の鐘は太子影向にあり、鐘を引いて歩く形式のため鐘楼とはできません。が、参詣者が自分自身で鐘を撞くことができる一のお堂です。
- ⑤ 亀井不動尊
聖徳太子が尊いお声に呼び止まられ、亀井の水を飲まれると、仏法の守護神である不動明王の姿が水面に映っていたため、「こに不動尊」が祀られたのが起源です。
- ⑥ 六時堂
弘仁七年(八二六)創建。伝教大師聖徳が比叡山根本中尊を移し給へるに始まると伝わります。現在のお堂は、元和九年(一六三三)の再建で国の重要文化財に指定されています。
屋敷六にわたり諸仏講堂をするお堂であったので、正式には六時礼讃堂と言います。
- ⑦ 元三大師堂
「元三大師はおみじの創始者であり魔を退ける大師のお姿を示現して至心に折りを拝する参詣者に無限の守護と靈験を与えます。」



6 おもかる地蔵尊を 持ち上げよう!

六時堂 おもかる地蔵尊

このお地蔵さまの前で 願い事を折念し、お地蔵様を 台と共に持ち上げて下さい。

このお地蔵さまを持ち上げた時、軽ければ 願い事が叶うといわれ、重ければまだその 時期ではないといわれています。 願い事が叶うかどうか教えてくれる不思議なお地蔵さまです。

4 鐘を鳴らそう!

太子引導鐘堂 (南鐘堂)

鐘の音は秋の御衣の響きを伝え、はるか極楽浄土に通じるといわれています。太子による引導のご霊願によって建てられたため、太子引導鐘と呼ばれています。

御真言: おん・あみりた・ていぜい・からうん

1 鐘を三度ついて真言を唱えらる

聖徳太子影向引導石

「摩訶尊、鳥窟の前で折ると、聖徳太子は自らこの石の上に影向せられ、極楽浄土にお導き下さる。」と伝えられています。

御真言: おん・ばらだ・はんどめい・らん

7 智慧の輪をくぐろう!

元三大師堂 智慧の輪

合掌しながら、御真言: おん・ばらだ・はんどめい・らん と唱え、智慧の輪をくぐれば 成願上り、大願成就!

元三大師堂は智慧の殿堂として合格祈願の受験生の厚い信仰があります。

5 水かけ不動明王!

亀井不動尊 水かけ不動尊

本尊は水掛け不動尊。左に子青地蔵尊、右に延命地蔵尊を祀っています。

御真言: なーまく・さまだ・ばざなん・せんだん・まーかるしゃん・そわたや・らんたらた・かんまん

2 転法輪をまわそう!

西大門(極楽門) 転法輪

門柱に転法輪があり、参詣者はこれを回転させ、直接法門に触れることにより、洗心の功德を積むことができます。

転法輪とは → 釈迦如来の説法が過去現在未来と無限に続くことを表してあり、仏足石・香爐樹と並んで仏院(偈れるもの)の象徴とされています。

御真言: おん・まかさやるにきゃ・そわか

3 木槌でたたこう!

万灯院 (かみご守)

丸太の灯籠は木槌でたたかれ白のように真ん中が窪み入る。木槌で打撃を3回たたき、次は、自分の痛んでる場所をトントン3回たたき。

御真言: おん・まかさやるにきゃ・そわか

⑧ 八方除守 ¥1,000 (万灯院)

あらゆる災難から身を 守り守りくださるお守りです。カンパなどに付けて下さい。

⑨ かみご守 ¥1,000 (万灯院)

杖の下に納めて寝ると 寝ている間に悪い所の 苦しみをお守りの中に 封じ込めて下さる。

⑩ 必勝ダルマ守 ¥500 (元三大師)

学業をはじめ勝負事 などで必勝を祈願! そのための努力に力を授けてくれるお守り!

⑪ 聖徳太子養護守 ¥1,000 (太子引導鐘堂)

初詣入りの病気平癒守り。聖徳太子が父・用明天皇がご病気の際、病弱が持ち、病気平癒を祈ったと言われています。

⑫ 聖徳太子香御守 ¥700 (太子引導鐘堂)

「お香」は魔除けの効果があり 身体を清め邪気を払うとされています。肌身離さずお持ち下さい。